

# センバツ出場決定!

## 専修大学松戸高校野球部

1月29日午後3時47分、取材陣が集まる多目的ホールの中、高野連から徳山齊校長の元へ1本の電話が鳴った。「謹んでお受けいたします。」第93回選抜高校野球大会に専修大学松戸高校の出場決定が正式に伝えられたのである。



高野連から出場決定の電話を受ける徳山齊校長。

春の選抜高校野球大会は創部62年目にして初、甲子園出場は2015年夏以来2度目となる。

高野連からの吉報を受けた後、そのまま市内の練習グラウンドへ移動し部員たちに伝えられた。コロナ対策から大きな声で歓喜できなかったがマスクの下には部員



出場決定の知らせを受ける選手たち。自然に笑みがこぼれる。

たちの嬉しそうな表情が見て取れた。喜びにあふれた専松ナイン、そして持丸監督取材してきた。



帽子を高々と投げ喜びを爆発。

### 持丸監督と石井詠己主将の声

「コロナ禍の中でも頑張った結果選抜出場は子どもたちや我々にとつてご褒美になった」と話す持丸監督の顔はほころんでいた。今年のチームについて尋ねると「弱いですが。本当に普通の高校生が頑張つてやっけているような感じ。でもねやる気はある。不平不満なんか持っていないし、野球やりたい、やっついてよかったという声を聞いて、自分としては良いチームになった

など思っている。勝つて校旗を掲げ校歌を歌いたい」と謙遜しながらもその言葉には一勝を約束する自信も伺えた。



いいチームになった。地元のみなさんも楽しめる甲子園にしたいと話す持丸監督。

石井詠己主将(2年)からは「組織力、決定力のあるチームになりました。一試合一試合勝つことに組織として強くなつていきました。練習への意識、私生活の取り組み方も変わっていきました。3年生が甲子園という目標を見失った姿を一番近くで見たことが大きかったです。一勝でも多く勝ち校歌を歌いたいです」と意欲を見せた。



甲子園での一勝に意欲を見せる石井詠己主将。

### 個性が合致した組織力のあるチーム

専松打線は今年も強力である。昨年度の県大会では6試合で計35得点、そして昨年の関東大会では初戦、二回戦と計14得点も上げる打撃力だ。

中でも注目すべきは1年からスタメン入りする4番の吉岡道泰外野手(2年)だ。180センチ80キロと体格に恵まれ脚力も高く、動き全体に躍動感がある大型スラッガーである。

3番石井詠己主将とここぞという場面で活躍してくれるだろう。

3番4番の中軸に注目したが、ひと際目立つ存在は他にもいる。加藤大悟捕手(1年)である。185センチ76キロの大型打者で長打力が期待できる。

また、関東大会出場を懸けた千葉英和戦との試合で適時三塁打を放ったチャンスに強い山口楓大内野手(2年)にも注目だ。



エース深沢鳳介投手。甲子園の舞台で強豪校を抑えたいと力強いコメント。

### 専修大学松戸高校 野球部 輝く戦績

2020年	秋季関東大会	ベスト4
2020年	秋季千葉大会	ベスト4
2020年	夏季千葉県大会	準優勝
2019年	秋季千葉大会	ベスト4
2019年	春季関東大会	ベスト4
2019年	春季千葉大会	準優勝
2018年	春季千葉大会	ベスト4
2017年	春季千葉大会	優勝
2016年	秋季千葉大会	ベスト4
2015年	秋季千葉大会	ベスト4
2015年	全国高校野球選手権千葉大会	優勝
2015年	春季千葉大会	優勝
2014年	全国高校野球選手権千葉大会	準優勝
2014年	春季千葉大会	優勝
2013年	全国高校野球選手権千葉大会	優勝
2013年	春季関東大会	ベスト4
2013年	春季千葉大会	準優勝
2012年	秋季千葉大会	ベスト4
2012年	全国高校野球選手権千葉大会	ベスト4
2012年	春季千葉大会	優勝
2011年	春季千葉大会	準優勝

次に投手陣の紹介をする。エースである深沢鳳介投手(2年)は140キロに迫る直球と得意のスライダーを武器とし、コントロールが良く打たせて取るタイプ。昨秋の関東大会では初戦鹿島学園、続く2回戦鎌倉学園と2試合連続となる無四球完封勝ちを取っている。投手2番手にはリトルシニアの豪強・江戸川中央リトルシニアの出身で、日本選手権大会では東北楽天シニアに完封勝利を見た岡本陸投手(2年)が控えている。千葉英和戦では先発でマウンドへ上がり、常時130キロ前半のストリート(最速136キロ)に、キレのあるスライダーを低めに丁寧に集めて、千葉英和打線を7回まで4安打1失点に抑えた。何十本もホームランを打てる打者や150キロを投げる投手はいないが、それぞれの個性が合致したチームの組織力は全国に通用するレベルだ。

3月19日の開幕まで残り約1カ月、最終的な実践練習にはびみ組織力にさらなる磨きをかける専松ナイン。先輩たちが成し遂げなかった甲子園での1勝その先にある全国制覇をぜひつかなでほしい!

(2021年1月取材)